

ハオルシア ニュース

HAWORTHIA NEWS No. 33 2017年12月

大寒波襲来です。防寒対策は万全に。さてお待たせしていましたハオルシア研究33号をお届けします。

【ハオルシアフェスタ 2018】

4月22日(日)午前9時より、東京両国の国際ファッションセンター3F KFCホール annex にて開催。

(東京都墨田区横綱 1-6-1 (03-5610-5801)。第一ホテル両国と同じ建物です。)

品評会(日本ハオルシア大賞2018)の他、即売会、セリ会があります。詳細内容は後日ご案内します。

【会費納入のご案内】

- ◎ 振込用紙が同封されている方は、33号で購読料(会費)切れです。2号分の予約購読料 5千円を送金してください。
- ◎ 予約購読料は郵便振替で「00160-0-182141 日本ハオルシア協会」宛ご送金ください。
- ◎ 振込用紙が同封されていない方は34号以降まで購読料を払い込み済みです。ご送金の必要はありません。

【バックナンバーのご案内】

ハオルシア研究誌のバックナンバーは送料込み1冊2500円です(10冊以上まとめてご注文の場合は1冊2000円)。ハオルシア研究28号は「ハオルシア品種名総覧」(明治以降2013年までのハオルシア品種名の一覧リスト)で、会員特価4000円(一般市価 6000円)ですが、バックナンバーを4冊以上ご注文の場合は28号も同価格(2500円)とします。

【入門書の中国語訳版発売について】

昨年5月に発売された当会監修の「多肉植物 ハオルシア」ですが、好評のため、昨年11月に国内で増刷になったほか、今年3月には中国語訳の翻訳版が発売されます。

【盗難事件と価格動向について】

数年来、ハオルシア栽培家の温室に泥棒が入り、玉扇、万象他の優良品種が大量に盗まれるという事件が続発しています。当時の時価からすると、1件当たり何千万円もの大変な被害額です。ハオルシアはここ数年価格が異常高騰しているため、盗難の危険性はまだまだ高いです。

ただ日本のほか、中国などでも組織培養による大量生産が軌道に乗ってきており、高額品でも小苗の価格は急激に下落しています。例えば中国では蜃気楼(万象)小苗が1本200円、雪国万象が1本80円などという低価格で販売されているという話ですし、これらが日本に輸入されて1本1000円程度で売られているといううわさも広がっています。

このような噂の真偽はともかく、日本国内でも各地でハオルシア高額品の組織培養が始まっており、高額品でも小苗の価格は急速に低下しています。大苗は培養で大量生産できませんので当面はそれほど価格下落しないとみられますが、小苗が大量に生産されれば、少なくともその半数は大苗に育っていくと予想されますから、大苗の価格も近い将来にはかなり低下することは避けられません。

そうなるに投機や投資目的でハオルシア高額品を買いあさっていた中国などの資産家も購入を控えたり、あるいは手持ち品を市場価格の高いうちに処分しようとする動きも出てくるでしょう。もともとこれら玉扇・万象の高額品を収集していたマニア層は日本国内で300人程度、どんなに多く見積もっても1000人はいませんし、中国でもその10倍程度ですからいったん価格低下が始まると価格を下支えする需要者層がありません。

多肉植物やハオルシアの愛好家は非常に勢いで増えており、国内でおよそ100万人程度のハオルシア愛好家がいるとみられますが、その大部分は玉扇・万象以外の愛好家です。もともと数少ない玉扇・万象高額品の収集家が今後大幅に増えることを予想するのは困難ですから、これら高額品の価格低下は今後加速こそすれ、再上昇することはないでしょう。

そのような価格動向や見通しが立てられれば、泥棒が高額品を盗み出しても、それを高価で買おうとする中国などの資産家も大幅に減少し、泥棒達が盗品の処分に困るという事態になります。投げ売りやたたき売りでは以前のようなぼろもうけはまったく期待できません。昨年秋以降、盗難事件が大幅に減ったのはこのような事情のためと思われます。

高額品の価格低下は盗難事件の減少とともに、金儲け目当てにこれら高額品で一儲けしようとする転売業者やセミプロ達を市場から退出させることにもつながります。商売の邪魔になるからと品種名統一に反対する強欲なサボテン業者が市場を牛耳る異常な状態に終止符を打ち、一方で、価格にとらわれずに真にハオルシアを愛する愛好家が安価に優良品種を購入できる市場環境ができるとすれば、高額品の価格低下は大いに歓迎すべき現象です。

【ハオルシアの趣味家人口について】

昨年（2016年）のハオルシアニュース32号でもハオルシアの趣味家人口について推定値を出しましたが、より詳細なデータを手に入れましたので、それに基づいた推定をお知らせします。

サボテン・多肉植物の市場流通量（市場統計より）

	2014年	2015年	2016年
㊦ 主要21卸売市場 合計	420万鉢	530万鉢	580万鉢
㊧ 全卸売市場合計（推定）	670万鉢	840万鉢	920万鉢
㊨ 全流通量（推定）	960万鉢	1200万鉢	1310万鉢
㊩ 増加率（前年比）	—	118%	109%

上表㊦は最近3年間の全国の主要21花き卸市場におけるサボテン・多肉植物の流通量（鉢数）です。㊧は主要21卸市場以外の卸市場における流通量を市場規模などから推定し、それを㊦に加えた、卸市場全体の推定流通量です。さらに卸市場を経由しないで生産者から小売店に直接流通する量を全体の30%程度と仮定して、国内全体のサボテン・多肉植物の流通量を推定した数字が㊨です。

㊩は㊦の増加率です。花き市場全体ではおおむね横ばい傾向とのことですが、その中でサボテン・多肉植物は際立った増加率を示しています。近年の多肉植物ブームを裏付ける数字です。

一昨年（2016年）の全国のサボテン・多肉植物の全流通量は1310万鉢と推定されますが、これはマニア市場を除いた一般市場の流通量です。したがってこれらはホームセンターやフラワーセンター、花屋さんなどの店頭で販売されるわけですが、サボテン・多肉植物の愛好家が一人年間10鉢買うとすれば愛好家の人口は130万人、年間5鉢なら260万人の愛好家がいる計算になります。年間10鉢も買う人は結構熱心な方でそれほど多くはなく、大部分は気に入ったものがあればたまに買うという程度の方ではないかと推定されます。したがってサボテン・多肉植物の愛好家＝サボテン・多肉植物を購入する可能性のある需要者、は全国でおおむね200万人弱いると考えられます。

ハオルシアはサボテン・多肉植物全体の中で断トツの人気グループですから、サボテン・多肉植物の愛好家の多くは、手ごろな価格でハオルシアの優良品種が市場に並べば何鉢か買ってみたくは思っているはずですが、したがってサボテン・多肉植物愛好家の少なくとも半分程度はハオルシアを購入する可能性のあるハオルシア愛好家（需要者）だと考えてよいでしょう。そうするとハオルシア愛好家の人口はおおよそ100万人と推定できます。

【品種名の商標登録について】

日本ハオルシア協会では品種名の整理統一を進め、異名や不正使用を排除するために、重要な品種名を商標登録申請しています。すでに玄武や雪国万象など、50以上の品種名が登録査定となり、間もなく公開されます。また登録査定にならなかった残りの品種名は意見書を出して再審査中です。

商標登録された品種を事業者が販売する時は当会（商標権者）または当会から委託を受けた商標管理者（原則としてその品種の育成者）の承諾が必要です。一般趣味家が趣味の範囲内で小規模に増やしたものを売る場合は商標権者の承諾なく販売可能ですが、サボテン業者や培養で大量繁殖しているセミプロの方などは必ず承諾を得てください。ヤフオクなどでの販売も同様です。

趣味の範囲での販売とは次のすべてに当てはまるものです。

- ① 多肉植物販売の年間所得（利益）合計が20万円未満（これを超えると税法上事業者となり、確定申告が必要）
- ② 多肉植物の販売本数が1品種年間5本以下、かつ全品種で年間50本以下

ハオルシア品種の育成者で当会会員の方は、自分が育成した品種の商標管理者となることができます。商標管理者となると第三者が業として繁殖した苗すべてについて、販売する際にその名前（商標）の使用を許諾（または拒否）することができ、その名前（商標）の使用に対して任意の使用料金を徴収できます。これにより品種の育成者はその品種を繁殖して商売する人から育種にかかった費用を回収できます。

具体的には当会が品種名と通し番号を書いた許諾ラベルを低額（1枚500～1000円）で発行し、商標管理者（育成者）はその商品を販売しようとする第三者にこのラベルを買ってもらいます。ラベルの価格は商標管理者が自由に設定でき、差額は商標管理者の利益となります。このラベルは商品の購入者に対し商品が真正品であり、かつ商標権者の許諾を得たものであることを保証するものです。

商標登録された品種を業として販売したい人は商標管理者から許諾ラベルを買って商品に添付してください。このラベルなしで業としてその品種を販売したり、別名や一般名、無名で販売すると損害賠償を請求されます。新品种の育成者で商標管理者になりたい方や、自分の品種名を商標登録したい方は事務局までお問合せ下さい。